

『地デジ化のメリットの視聴者及び地域への還元に関するシンポジウム』を開催！

1



NHK富山 西村さん



北日本放送 荒井さん



富山テレビ放送 小松さん



チューリップテレビ 藤井さん



テレビ金沢 黒口さん



ヨーズマー 野口さん

東北地方で被災した3県を除き、テレビ放送が地デジに完全移行して約5ヶ月となった平成23年12月22日(木)、金沢市内において、地デジの特徴を生かした番組づくりの充実、空いた電波の地域のための活用等を考えるシンポジウムを開催しました。

開会にあたり、主催者を代表して当局の齊藤局長から、「地デジに変わって本当に良かった」と視聴者や地域の方々に実感していただけるようにしていくことが、電波行政や放送事業に携わる者としての使命と考える。また、こういった内容をテーマとしたシンポジウムやセミナーは地方としては初めての開催と自負しており、北陸の地デジ、放送分野の発展に役立てて欲しいとあいさつしました。

【第1部 事例発表】

第1部では、地デジの特徴を生かした番組づくりに取り組んでおられる北陸管内の6社から事例発表をいただきました。

まずNHK富山放送局技術部西村さんから、地元のスポーツ番組において、地デジとワンセグのデータ放送を活用して、リアルタイムに応援メッセージを放送するシステムの紹介を、北日本放送技術部荒井さんからは、地デジ化の大きなメリットのひとつである高品質で臨場感のある5.1chサラウンド放送の番組制作の取り組みを、富山テレビ放送技術部小松さんからは、夏に開催されたゴルフトーナメントとプロサッカーリーグJ2に参戦しているカターレ富山の試合において、エリアワンセグ放送の実験試験局を開設して行った実証実験を、チューリップテレビ企画室長藤井さんからは、データ放送が地域密着のメディアであることを重要視し、自局情報の発信機能強化とローカル民放局としては初めての試みである県と連携した行政情報の提供を、テレビ金沢IT事業推進部黒口さんからは、局独自のデータ放送制作設備を開発・導入し、視聴者から観てもらえる、使ってもらえる、インターネットと連動したデータ放送の紹介がありました。

最後に、地デジ化で空いた周波数の利活用の観点から、ヨーズマー代表取締役野口さんより、今春の大震災で被害を受けた南相馬市で開局しているエリア放送、またこの放送を北陸に避難している視聴希望世帯にインターネットを使って配信しているサービス「南相馬チャンネル」の紹介がありました。



『地デジ化のメリットの視聴者及び地域への還元に関するシンポジウム』を開催！

2



パネルディスカッション出演者



コーディネータ 上智大 音教授

【第2部 パネルディスカッション】

第2部では、冒頭、コーディネータの上智大学音教授が「地デジ完全移行後の地方の放送事業の課題と可能性」と題して、①デジタルサービスは視聴者に届いているか、②きめ細かいサービスを実現したか、③デジタル化でテレビは面白くなったか、④テレビは新たな表現の場となり得るか、との4つの視点で地デジ化後のテレビの役割を考える必要があるとの問題提起のミニ講演が行われました。

その後、音教授を中心に学識経験者、放送事業者及びIT企業の6名のパネラーにより「放送・通信融合時代の地方のテレビの役割」とのテーマでディスカッションが行われました。

地方の放送が求められているものは何かとの観点では、地域の身近な生活情報などを早く正確に視聴者や地域社会に届けることが重要であり、そのためには、インターネットと連動して、テレビがお茶の間のファーストポータルとしての役割を担っていくことが必要との指摘がありました。

これからの放送のビジョンとしては、地域の発展に貢献するとともに、今までの枠組みを破るような取組が必要であり、加えて放送・通信の法体系の改正により制度的に見ても事業者の裁量が広がったことから、県域枠にとどまらず、将来、世界中でローカル番組が流れるような時代になることを見据え、多様な取組に挑戦して欲しいとの意見がありました。また、テレビ離れが加速していることに関して、テレビは見られなくなったのではなく、視聴者の見方が変わったのであり、とことん地デジの機能にこだわり、これまでのテレビの速報性とデータ放送による新たな可能性を追求していくことが使命であるとの発言がありました。

更に、今年度中に法整備がなされる予定のホワイトスペースを活用したエリア放送型システムは、地域社会の発展のための切り札の一つであり、新たなビジネスチャンスとして捉えて積極的に活用して欲しいとの指摘がありました。

最後に、世界的に放送と通信の規制緩和が進んでいる中、地デジの可能性をどう提示できるか、放送に携わる関係者がそれぞれミッション（使命）として捉え、新しいものに果敢にチャレンジして視聴者や地域社会に還元していくことが重要とのまとめでシンポジウムを締めくくりました。

（※当日は、定員を大きく上回るご参加をいただき誠にありがとうございました。[情報通信部放送課]）



金沢大学 宇野特任教授



NHK福井 小木曾さん



チューリップテレビ 藤井さん



テレビ金沢 黒口さん



ヨーズマー 野口さん



北陸総合通信局 齊藤局長



地デジ化のメリットの視聴者及び地域への還元に関するシンポジウム

～地デジの特徴を生かした番組づくりの充実、空いた電波の地域のための活用等～

◆日時

平成23年12月22日(木)

13:30～16:45

◆場所

KKRホテル金沢 3F 鳳凰の間
金沢市大手町2-32

【第1部 13:30～14:55】

参加
無料

◆開会挨拶

総務省北陸総合通信局
局長 齊藤 一雅

◆取組事例紹介1

～地デジの特徴を生かした番組づくりの充実～

(順不同)

地デジとワンセグのデータ放送を活用した地域放送サービス	NHK富山放送局 技術部 西村 博史 氏
5.1CHサラウンド放送への取り組み	北日本放送(株) 放送本部技術局技術部 荒井 康寿 氏
エリアワンセグ放送の実証実験	富山テレビ放送(株) 技術局技術部 小松 裕史 氏
データ放送のローカル送出実現と地域情報の提供	(株)チューリップテレビ 企画室 室長 藤井 淳 氏
自社制作データ放送、クロスメディア展開による地域情報の独自発信	(株)テレビ金沢 編成局IT事業推進部 黒口 啓一郎 氏

◆取組事例紹介2

～空いた電波の地域のための活用～

奇跡の出会いプロジェクト・南相馬チャンネル	(株)ヨースマー 代表取締役 野口 高志 氏
-----------------------	---------------------------

北陸管内の放送事業者等による取組事例の紹介や有識者を交えたパネルディスカッションを通じて、地デジ完全移行後の地方の放送事業者等が担うべき役割や可能性について展望します。



【第2部 15:05～16:45】

◆パネルディスカッション

テーマ：「放送・通信融合時代の地方のテレビの役割」

コーディネータ	上智大学 文学部新聞学科 教授 音 好宏 氏
パネリスト (順不同)	金沢大学 地域連携推進センター 特任教授 宇野 文夫 氏
	NHK福井放送局 技術部 部長 小木曾 圭一 氏
	(株)チューリップテレビ 企画室 室長 藤井 淳 氏
	(株)テレビ金沢 編成局IT事業推進部 黒口 啓一郎 氏
	(株)ヨースマー 代表取締役 野口 高志 氏
	総務省北陸総合通信局 局長 齊藤 一雅



◆コーディネータ

音 好宏(おと よしひろ)氏プロフィール

上智大学文学部新聞学科教授。1961年、札幌生まれ。

上智大学大学院博士課程修了後、1990年より、日本民間放送連盟研究所勤務。

上智大学文学部新聞学科助教授、コロンビア大学客員研究員などを経て、2007年より現職。

専攻はメディア論、情報社会論。著書に『放送メディアの現代的展開』など。

地上デジタル放送の移行にあたっては、共聴施設デジタル化推進会議(スクラム2011)の座長を務めた。

◆主 催 総務省北陸総合通信局 北陸情報通信協議会
◆後 援 富山地上デジタル放送推進協議会、石川地上デジタル放送推進協議会、福井地上デジタル放送推進協議会
■お問い合わせ 北陸総合通信局情報通信部放送課 TEL 076-233-4494 メール hokuriku-hoso@ml.soumu.go.jp